アマゾン、マイクロソフト、コストコ、任天堂、スターバックスなどなど、毎朝株式市場を賑あわせています。コストコでお買い物をされた方にはKIRKLANDブランドをみかけられたと思いますが、それはシアトルのすぐ近くにある、街の名前でもあります。

アメリカにいくと、よく茶色い水のようなコーヒーがでてきたというのを聞きますが、シアトルではそれはあり得ません。みなプライドを持って美味しいコーヒーを淹れています。

今日伝えたかったこと

このように、わたしの人生はまだまだこれから何が起こるかわかりません。

今に至るまで、この東ロータリークラブに育てていただいたようなものです。

クラブによっていろいろな機会をいただき、大きな視野で物事をとらえることができるようになり、いろいろな新しいことにチャレンジできる精神を養ってもらったと思っています。きっとこのクラブから長期留学をされたみなさんも同じ思いであるに違いありません。

感謝の気持ちはつきませんが、ここで今日のお話を終わらせていただきたいと思います。

どうかこれからも私と家族の人生を応援くださいますよう心よりお願い申し上げます。

にこにこ箱

ありがとうございました

野井　聖子さん　本日は例会のなか大切な時間を私の卓話のために下さりありがとうございます。
野井　　晋さん　拙い娘の卓話を聞いて頂くとのこと有難うございます。
笹島　良雄さん　野井さん本日は有難う御座いました。お父さんになるべくお顔を見せてあげて下さい。
樫畑　友洋さん　野井聖子さん、本日は卓話よろしくお願いいたします。
吉田　篤生さん　野井さん、卓話宜しくお願いします。
林　　毅さん　昨日の移転レセプションに際してご祝電を頂戴し誠に有難うございました。
田原　久一さん　野井聖子さん、本日よろしくお願いします。
赤井　雅哉さん　野井さん、本日はありがとうございます。楽しみにしています。
上中　崇司さん　台風が近づいています。災害に備えましょう。

〔お誕生日お祝い〕
黒田　純一さん　お誕生日お祝いをいただいて。
三木　保典さん　お誕生日お祝いをいただいて。
片岡　聖佳さん　今月で51才になります。これからもよろしくお願いします。

本日の累計 55,000円(計12名　12件)〔お誕生日お祝い　30,000円　その他　182,550円　累計額　212,550円〕

本日の例会　7月23日(木)

■フリートーキング

■ピアノ演奏　中井　利枝さん
I DIDN'T KNOW WHAT TIME IT WAS(R.Rodgers)
HERE'S THAT RAINY DAY(J.V.Heusen)

次回の例会　7月30日(木)P.M.6：30～ ホテルグランヴィア和歌山屋上

■ビアパーティ

前回の例会　7月16日(木)

■卓話「ロータリーと私」　野井　聖子さん

■ロータリーソング　黒田　純一 ソング委員長
「それでこそロータリー」

メイキャップ　(敬称略)

7月17日(金)　和歌山中R.C.　吉田　篤生

出席報告

会員数 44名(内出席規定適用免除会員12名)
内畑　瑛造 出席副委員長

7月16日(本　日)	30名/38名	78.9%
7月 2日(メーキャップ後)	31名/39名	79.5%

皆さん、出席してください。

国際ロータリー第2640地区　和歌山東ロータリークラブ　創立／1959年2月23日
例会場／ダイワロイネットホテル和歌山　〒640-8156 和歌山市七番丁26-1　TEL（073)435-3333･FAX（073)423-0057
事務局／〒640-8142　和歌山市三番丁6関西電電ビル5F　TEL（073)432-4343･FAX（073)432-4845
会報･広報委員会　乾　敦雄　武田　慎介　吉増　亨　谷口　文利
例会日　木曜日　12時30分

2015年7月23日(木)
週報 / VOL.57
No. 4
(通巻2690)

我々の組織について考え原点に立ち返ろう

2015-2016年度
和歌山東ロータリーのテーマ

世界へのプレゼントになろう

Be a gift to the world
2015-2016年度 国際ロータリーのテーマ

国際ロータリー第2640地区
和歌山東ロータリークラブ
URL：http://www.werc.jp　E-mail：info@werc.jp

会長報告　田原　久一 会長

昨日、シンガポールロータリークラブよりメールがあり、11月の第１週目に来和の予定で決定し参加者募集するとの事です。人数が決まり次第報告頂けます。出来れば夜間例会で対応したいと思っております。

また本日、野井会員の娘さんで野井聖子(さとこ)さんの卓話を頂きます。聖子(さとこ)さんは青少年交換プログラムで留学されました。

現在の地区の交換留学ですが、地区状況を考えると、交換留学はとても無理です。地区がしっかり、サポートしてくれなくては、出来ない交換プログラムです、私の次女もアメリカのカンザス州の方に高１の時、留学させて頂きました。お陰様で、描いた絵がコンクールで入選する事があり、それが、御縁で大学まで７年間行ってきました。本当に良かったと、本人共々喜んでおります。

送りだせば交換ですから受け入れもしなくてはいけません。当時は受け入れに５家族くらい名乗りを上げて頂き本当にありがたかったです。一番盛況だったころは、５～６年間くらい続いたと思います。ロータリーの交換プログラムは高１か高２の時留学して、１年間行って来て、帰ってきたら日本では同学年をもう一度しなければいけませんが、得るところが必ずあるはずです。留学を希望の方は、ご相談ください。以上です。

幹事報告　赤井　雅哉 幹事

本日、新しい2015－2016年度委員会編成表をお配りしています。先日の理事役員会で、退会された細川さんの欠員補填ということで審議し、古屋光英さんに会員増強委員長(理事)と副SAAをして頂くことに決定しましたので、その部分が変更しております。

お誕生日お祝い

黒田　純一さん　今年67才になりました。昨年孫が二人出来ましておじいちゃんの仲間入りをしました。仕事ももうしばらく現役で頑張るつもりですので、これからもよろしくお願いします。

三木　保典さん　65才になりました。入会させて頂いてすぐに誕生日を祝っていただきありがとうございます。お陰様で65年間無事にすごさせてもらっていることを感謝しつつ、これから先もますます元気なおじいちゃんを目指して精進していきたいと思います。

片岡　聖佳さん　もうすぐ51才になります。激動の50年間を乗り越えまして、一からスタートする機会をもちました。これから頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

おめでとうございます

卓 話 「ロータリーとわたし」

野井　聖子さん

こんにちは、ご紹介いただきました、のいさとこです。
きょうはここでこのようにお話をする機会をあたえていただいたことにこころより感謝します。
実はこの場には一度立たせていただいたことがあります。
長期留学からもどった高校３年生の秋でした。もう、30年以上前になります。
きょうは、ロータリークラブがあったからこそ今に至っていることを最近切実に思い、感謝の気持ちを伝えたいと参りました。

和歌山東ロータリークラブとわたし

父、野井晋は、1973-74年度よりこの和歌山東ロータリーの会員ですが、当時はまだチャーターメンバーもおられ、高度経済成長期であったこともあり、小学生であったわたしにとってクリスマス会などはとてもきらびやかなものだったと記憶しています。

いまでこそ、NPO(非営利団体)という名前や、ボランティアといったことが普通の言葉として使われていますが、当時はロータリーのように奉仕がクラブの活動の中心にあるという団体はあまり存在していなかったように思います。父の部屋の額にはいっていたロータリーの精神を読んでは、難しいことだなと考えたものです。

故人になりますが、菅井会員や、御前会員、宮坂会員、まだまだたくさんのロータリアンの方方が父と同じようにいつもわたしのことをかわいがってくださったのを思い出します。

1982年に、父から東ロータリークラブが行っている、青少年長期交換留学生の話を聞き、なんでもやってみたいわたしは、アメリカ留学を決めました。当時通っていた和歌山県立桐蔭高校ではすでに１年間の留学をする生徒は各学年数人はおり、また他校にさきがけ、外国からの短期留学生、長期留学生も年に何人かは受け入れていました。学業があまり得意でなかったわたしにとって、学校が承諾してくれるまで時間がかかりましたが、島忠弘会員や、その他たくさんの方々の応援で無事受け入れ先も決まり、1983年７月末にほかの246地区からの留学生たちと日本をたちました。

インディアナ州、ミッチェルロータリークラブとわたし

83年に高校３年生の１学期で休学し、転入したのは、ミッチェル高校という、町にある唯一の高校でした。中学校・小学校・幼稚園も併設されており、町の子供たちはそこに大人になって町を出るまで通学しました。現在も学校数は増えてはいないようです。お世話になったミッチェルロータリーは、わたしの前にすでに８人の長期交換留学生をホストした経験があり、日本人も第１人目が千葉県からの女性であったこともあり心強かったことを思い出します。さて、この高校は小さいながら、いろいろなクラブ活動もあり、カリキュラムも充実していました。留学前に、歌が大好きで、小学生の頃から、合唱団でいろいろな経験をしたことを知った、音楽の先生からお便りをいただきました。CHOIRという教科が学校で選択できると知り、まずそのクラスを登録したことを思い出します。英語は必須でしたが、ヒアリングで苦戦していたわたしにとって、到底アメリカ人の18歳と席を同じくすることは無理でしたので、スピーチ・ドラマのクラスに受け入れてもらいました。３年生に転入させてもらっていたので、卒業のために経済・政治は必須でそれはそれは苦労しながらテスト勉強をしたものです。終わりのころまで、いつも辞書を持ち込ませてもらっていました。その他は家庭科・関数・英文タイプなどを選択していました。

毎月、当時の川口会長にお便りを送っては励ましのエールをいただいていたことを懐かしく思います。

初めてのアメリカは、広大だとは思ったものの、英語がいかに聞き取りにくく、自分の言いたいことがなかなかうまく表現できず、過度のホームシックになりました。ただ、そのことを友達に言うのも悲しく、ただただ毎日お便りをたくさんの友だちに送り、ストレスを発散させていました。思えば、そのときにインターネットがあったらもっと交流がうまくできていたに違いありませんが・・・当時はようやくNTTがテレフォンカードを利用する緑の電話を置き始めた時代でありました。家に電話をするにも、常に「コレクトコール」を伝え、「パーソンTOパーソンコール」でとオペレーターにたのんでいました。１ドルが250円前後の時代でもあり、マクドナルドの１ドルバーガーが高価なものでありました。

学校で毎日を過ごすかたわら、毎週できるときにはホストファミリーのおとうさんとロータリーの例会に参加しました。当時お世話になった家族とまだ付き合いがあり、FBのおかげでいつも互いに交流を深めています。

毎日宿題に追われ、成績表をもらうたびに深いため息です。音楽だけはどこの学校にいてもいつも一番でしたが、社会科などは先生がもうあきらめかかっていたかもしれません。アメリカのシステムの違いにいつも驚いていたことしか思い出すことはできませんが、高校３年生で税金申告の書類の書き方を習ったことには一番びっくりしました。さすが、自立をはやく促す国アメリカです。

合唱クラスで、コンサートやラジオ出演、コンクールなどに参加したり、春には陸上クラブで、1200mと砲丸投げを経験することもできました。

ラジオの英語やテレビの英語がようやく聞こえてくるようになると、あっという間に春がきて、卒業の時期になりました。母がアメリカに来て、卒業式に同席してくれました。久々の再会はとてもうれしく、両親のことを感謝しました。無事卒業し、証書をもらいました。いまもその当時の白いガウンとキャップは持っています。ロータリークラブの会員が所持するフォードのモデルTに乗せてもらい、卒業式の記念パーティー会場にいったことがつい先日のことのようです。

残念ながら受け入れてくださった、このミッチェルロータリーは数年前に歴史に終止符をうたれました。

５月の末に高校を卒業してから、帰国までの間、米国の受け入れ地区が計画してくれた、長期留学生のバスツアーに参加することにしました。世界各国からの97人の留学生たちとグレーハウンドのバス３台に乗り、各地でロータリアンのお宅でホームステーをさせてもらいながら１ヶ月旅をしました。中部・西部・北西部にある州にはすべて立ち寄ることができ、その思い出はいまでも人生のページのとても大切なところにあります。264地区から来ていたほかの留学生も３人このツアーに参加していて、思い出話をいろいろとすることができました。このとき、シアトルにも立ち寄りスペースニードルをみながら、ずいぶん田舎だと思ったものです。８月になって、日本にもどりましたが、かなり横に成長して伊丹空港に到着したので、空港に迎えにきていた家族も友人も相当びっくりしたようです。

当時はまだ高校生の留学中の単位は、日本の学校での単位とみとめられておらず、９月になり２学期から３年生にまたもどりました。当時は軟式テニス部に所属していましたので、後輩と同じ学年になり、すぐにたくさんのすばらしい友人にめぐり合いました。わたしには３つの高校３年生としての経験があり、不思議なことですが、いまもたくさんの高校時代の友達がいることに感謝します。

秋が深まり、受験が始まろうとしていました。１年間日本での学業を休んでいたわけですから、なかなかその当時の実力で受かりそうな大学はありませんでした。ただアメリカに１年いたわけですから、英語だけはどうしても優秀でありたく、戻ってきてからテストに挑むときにはかならず全文を暗記していったものです。教科書の理解度も以前の自分とはまったく違っていました。当時のクラスに図書館の番人のような同級生がおり、たくさんの本をわたしに薦めてくれました。現代国語の成績がみるみる伸びました。英語と国語で受験できる大学を探しているうちに、京都外国語大学の推薦枠をみつけました。担任であった国語担当の辻先生に小論文の指導を受け、無事12月に合格しました。

和歌山ローターアクトとわたし

４月、同じクラスからわたしの他に２名、また他にも１名合計４人が同じ大学に進学しました。なれない一人暮らしにもすぐになじんで、またたく間に学校でもたくさんの友人ができました。京都外国語大学は「言語で世界平和を」をモットーにしています。自由な校風のなか、たくさんの日本人教授、外国人教授が指導してくださり、大人になるために必要な知識、また英語に関する専門知識を習得しました。学校に通う一方、英文タイプの学校に夜間通学し、プロの資格も得ました。当時はコンピューター時代の幕開けで、ようやくワープロ検定ができ、第１回の商工会議所３級の検定にも合格しました。通学のかたわら、京都ホテルや都ホテルで配膳のアルバイトをし、京都のかたたちの、たくさんの華やかな世界をみながら、貯金をため、後のヨーロッパ旅行の費用としました。

大学３回生の東ロータリークラブクリスマス家族会のとき、東ロータリークラブと姉妹関係にある、シンガポールロータリークラブから短期での訪問を受け入れてくださるという話があり、春に当時大学生や高校生であった会員の子女といっしょに初めてシンガポールを訪れました。その時にホームステーさせていただいた。LIEWさんにはずっとその先もお世話になりました。

４回生になる前の春休みには、また故人ですが、上山教授とシンガポールロータリークラブからこられたお客様を観光にお連れしたり、通訳をしたり、当時のCHAN会長や、HUANG前会長ご夫妻と交流を深めさせていただきました。このとき、ロータリーの地区大会が和歌山で行われ、そこで和歌山ローターアクトクラブのメンバーに出会います。幼稚園から同級生であった友人をみつけ、また連絡をすると話をしました。

就職に優位になるようにと、大学への通学を決心し、４回生は週２回京都まで電車で往復５時間かけて通いました。

春から和歌山ローターアクトクラブのメンバーになり、今度は和歌山ロータリークラブのみなさまのお世話になるようになりました。１年目は国際奉仕を担当させてもらいました。秋に246地区が恒例にしていたローターアクトのシンガポール研修旅行があり、当時の地区代表やみなさんの英語通訳でお手伝いをさせていただく機会が与えられました。旅行中は日本人兵士の墓地や、シンガポールの歴史に触れたり、現地のローターアクトクラブと親睦を深めました。後日たく

さんのお礼状をおくりました。わたしの主人もその中のひとりでした。

通学と塾での講師、家庭教師をしながら、就職活動をし、秋には内定が決まり、大学を優秀な？成績で卒業し、４月に大阪市にある兼松江商株式会社に就職しました。

社会人になって初めての仕事を覚えながら、ローターアクトクラブの奉仕も続けました。この頃和歌山県がホストした世界マスターズ陸上競技大会のボランティアもしました。とにかく忙しい毎日でした。例会になかなか参加できないときは、南海電車を途中で下車し、堺クラブや泉大津、泉佐野クラブなどによく参加させてもらったものです。1990-91年度、和歌山ローターアクトクラブの会長を務めさせていただきました。同年、和歌山で地区大会があり、たくさんのまわりのみなさんの助けをうけて無事開催できたことをいまも覚えています。

シンガポール北ロータアクトクラブとわたし

縁があり、25歳でローターアクトクラブを通じて出会った主人と結婚しました。
観光客では３度訪れてはいた国ですが、実際暮らすとなると毎日がわからないことの連続であったように思います。永住権が取得できるまで、仕事につくこともできなかったので、現地で英語の学校などに通い時間を過ごしました。

主人がシンガポール北ローターアクトクラブの会員でしたので、わたしも自然とその輪にまた入れていただきました。3310地区です。シンガポールは小さいところですが、とてもインパクトが大きい国です。社会主義国家であるため、社会的秩序も厳しく守られています。クラブのミーティングをする際も、どういった人がどこでいつあっているかを申請しなければならないようなことがありました。まだ若かったわたしたちのところに、いつもロータリークラブからどなたかが来てくださり、その活動を支えてくださったものです。シンガポール国内にもたくさんのローターアクトクラブがありましたが、マレーシア地区との交流もさかんでいつも週末はクラブのみなとなにかをしていました。また土地柄他国の地区から研修で訪れるクラブも多く、現地クラブでいろいろとお手伝いさせていただきました。同クラブの前会長が地区代表になったこともあり、最後の年には地区副幹事を務めさせていただきました。

シンガポールではスタッフサービスという日本では人材派遣を主にしている会社に就職し、就職のサポートや、学生・転職者の面接、マーケティングを担当しました。その後、機会があり、野村証券シンガポール支社に転職し、日本人上司の上級秘書として、現地の投資家への株式セミナーの企画や、日本から研修でこられる同社のみなさんのお手伝いなどをさせていただきました。シンガポールのシェントン・ウェイ地区にある高層ビルでお仕事をさせていただいたことはいまも楽しかった思い出のひとつです。

決断の時期

29歳の時、転機が訪れ主人と日本で暮らすことを決意しました。
日本語のできなかった主人はまず天王寺のYMCA日本語学校で全日日本語を学びました。
時は和歌山博でたくさんの観光客が訪れたころでした。

１年半後、ご縁があって当時大阪に本社のある、株式会社山幸製作所に就職した主人について、わたしも同社に入社しました。実際に配属されたのは、三重県一志郡嬉野町、現在松阪市になっているちいさな工場でした。その頃はコンビニもない、今までに見たこともない小さな町でした。近鉄電車でハブ駅となっている「伊勢中川」近辺です。

会社にはまだウィンドーズPCも導入されておらず、レーザープリンターも、イントラネットもない時代でした。わたしたちは自分のコンピューターを会社に持ち込み仕事をはじめました。

当時、会社はパーソナルコンピューターの普及で利益はうなぎのぼりにあり、インドネシア進出や中国進出を計画中でした。この会社は当時ブラウン管の中にはいっている精密特殊レンズを金属でプレスして作っていた会社で日本では７社しかそういった会社はなく、その精密部品を三菱、松下、ソニーなどに収めていました。生産部署と連動しているため、不良品などが出ないようにいつも細心の注意が払われていました。間に合わないときには、新幹線を使って社員が客先工場まで届けるといったこともありました。

わたしたちはインドネシアプロジェクトに属していたため、毎日工場の端から端まで歩いて部品や機械のことを先輩社員に教えてもらいつつ、無事インドネシア工場の備品を手配し、輸出し、日本で現地主職員に研修したあと、インドネシアで工場が稼働し始めました。丁度会社がISOの認定を受ける時期も重なり、毎日プロジェクト用の翻訳など、できることはなんでも任されのびのびと仕事をさせていただきました。長女が生まれる前に退社したのですが、それと同時にインドネシアに出向していた主人も日本に戻りました。

決意再び

みなさんの記憶にもきっとおありかと思うのですが、時代は液晶画面へと大きく変わっていきました。一時は大きい利益を上げて大阪株式第二市場に上場とまでいっていた会社の、電子部品部門が会社でもっとも問題のある部署になり、たくさんの海外投資で会社はとうとう倒産の一途をたどります。

主人にその時、また転機が訪れます。会社に残って残務整理をしながら、まったく違う業種の面接に応募していたときのことです。

横浜のランドマークにある、とあるIT会社から連絡が入りました。
電話面接はとんとん拍子で進み、最終面接が行われることになり、横浜に出向きました。
帰りの電車で大雨になり、富士山の近くで一夜を過ごし、自分の運もきっとここまでだと思ったそうです。ところが、11月の面接後、12月から早速出社といわれ、三重に建てた家を残して、家族で12月に横浜市に引越しました。

決意三度

無事横浜での生活が進み、主人の仕事も順調でした。長女が幼稚園の年中になったことを機にわたし自身も、また外に出ることにしました。今度は不動産関係の会社で物件のインターネット入力です。そうしている間に、ある日、主人がスペインに転勤になるかもというのです。マドリッドは嫌いなところというイメージはありませんでしたが、観光で行くのと住むのは違うことは以前の経験からよくわかります。ましてスペイン語圏でやっていける自信もありません。あれこれ悩んでいる間にお正月がきました。どうやら、スペイン行の話はなくなったのですが、今度は主人がアメリカに行くチャンスがあるといいます。１月にNYかボストンかシアトルを選ぶことができるといわれ、世界天気予報をみていたのですが、シアトルが一番温暖な気候だということがわかり、シアトルを選びました。テロ事件などで、ビザの申請がうまくいかず、春には荷物もアメリカに送ってしまっていたので、家もなく、再び横浜のホテル住まいになりながら、年長になったこどもの送り迎えをしつつ、渡米の時期を待ちました。GWが来てようやくシアトルに引越すことになりました。この年はなんと通算年間の80日をホテル住まいで過ごすことになりました。日本にいる間に探していた、日本語と英語で教えてくれるバイリンガルの学校に子供を入園させ、６月にはその幼稚園を卒業し、秋には同じ学校で小学校１年生になりました。日本語補習校にもお世話になり、二つの違った学校に長女を通わせて、いままでのびのびと育ってきた娘にとっては勉強ばかりのつらい日が始まりました。

その頃の主人の会社は、大手が販売開始するコンピューターソフトを世界で一斉販売できるように、各国言語に作り直す、ローカライゼーションということをしていました。主にマイクロソフト社の仕事をしていました。この仕事がら、会社の人達は世界各国から来ていて、とても多国籍な環境でした。よく家族みんなで会社に集まっては多国籍もちよりランチを楽しみました。そのころ、長男を身ごもっていることがわかり、その12月には無事アメリカで出産も経験しました。アメリカはご存知の通り、ストレスを自分にためないようにみんな生活を楽しむ国です。妊婦となったわたしにも、看護師のみなさんは、まだまだ細いから食べたいものを食べるようにと言ってもらい(これは長女の時の和歌山のお医者様の意見とは大きな違いが)、25KGほど太ったのを思い出します。その後元のようにもどるまで大変な努力と時間がかかりました。長男の出産の際、和歌山から両親も来てくれ、楽しく時間を過ごしたことをいまもよく思い出します。

四度目の決断

長女の学業がようやく落ち着き、慣れないアメリカでの子育てもなんとかなった頃、主人が横浜の会社から帰還依頼がでていると言いました。また荷物をまとめて移動する時期が来てしまいました。またもや買った家を残し、アメリカを後にしました。

小学生になっていた娘の今度の教育をどうするかで悩む日々が続きました。日本で公立小学校に行かせることが当たり前にも思えたのですが、せっかく得た英語の力をここであきらめてしまうこと、また将来的にまたアメリカに行くことを考え、清水の舞台から飛び降りて、横浜にあるミッション系のサンモールインターナショナルスクールに入学させることにしました。いまテレビなどで活躍されている杏ちゃんなどが卒業されたアジアで３番目に古いインターナショナルスクールです。慣れ親しんだ港北ニュータウンからは遠く、一大決心をして、山手に住居を移すことにしました。学費・家賃ともに高額で、生活には困りましたが、毎日楽しい日々でした。港の見える丘公園が長男の遊び場でした。こうしている間に主人が働いていた会社が、売却されることになりました。利益が上がっている間によそに売ってしまおうという、米国親会社の考えです。こういうとき売却された会社の社員がたくさん整理されることがわかっており、主人は転職を余

儀なくされました。転職者用の会社に登録したところ、主人の経歴を気に入ってくださったコンサルタントがおり、あっというまに、日本マイクロソフト社に就職が決まりました。

二度目の渡米

当時、マイクロソフトではXPが発売され、慣れない日本のカスタマーサービスで会社が思っていた結果を出した主人に上司からあるプレゼントがありました。入社当時からアメリカ転勤を懇願していた主人に、その許可が出てアメリカ本社に転籍することになりました。わたしたちはまた家の荷物をまとめ、またその当時暮らしていたマンションを残して。娘はこれから５年生に、息子は３歳になろうとしている年でした。

今に至ること

転勤前に、会社から下見のためしばらく家族でシアトルを訪れました。子供たちの学校は以前にお世話になった学校の本校と決めていましたので、家はそこから車で15分以内の場所を探しました。学校に面談にいきますと、以前いた分校にいらっしゃった校長先生が本校の校長となり、待っていてくださり、わたしたちのことをよく覚えてくださっていて、すぐに入学許可は下りました。

前回15か月で日本に戻ったこともあり、なかなか落ち着くことがなく最初の２年を過ごしました。実際わたしにとって子育てで一番大変な時期でもあり、あっという間に月日は流れていきました。

結婚してから引越すことほぼ20回、海外引越が４度。いままで同じ家に２年以上住んだことはありませんでした。

ですが、今回の家では８年目を迎えようとしています。

大きな転機

子供たちはそれぞれ中学生と小学生になりました。お世話になっている学校はシーダーパーククリスチャンスクールといって、プロテスタント系の学校です。伝統的に高校では日本語が選択科目として教えられており、娘がお世話になった分校では幼児期から日本語を教えていました。2010年のころから思うことがありました。それは自分の子供になかなか教えることができなかった日本語を他の子供に教えることでした。

仕事と家事の両立が難しいことがわかっていたので、職員応募用紙はもらったものの、１年近く記入できずにいました。2011年の夏、意を決して出願したところ、なんと長女がお世話になっていた、あの分校でちょうど日本語の先生が辞表を出し、日本人の教師を探しているとのことでした。早速校長先生に会いにいきますと、「祈りがつうじた」と喜んでくださいました。３日後にはすべての面接が終わり、雇用契約にサインし、その秋の新学期より日本語教師となりました。

わたしの勤務する、分校はベルビュー市という、シアトル市についで大きな市の中心地にあります。３歳児から小学校６年生までの小さな家庭的な学校です。

その学校で、日本語を自由に教える環境を与えられました。

日本語を母国語として学ぶ生徒、日本語を第二言語として学ぶ生徒、また日本語を外国語として学ぶ生徒。本人・両親が希望する家族には誰でも日本語を教えます。

人種の多様化に伴い、学校にはさまざまな母国を持った子供たちが通ってきます。

そこでは幼稚園年長児から６年生までを担当していますが、生徒にはインド系、ラオス系、フィリピン系、中国系、台湾系、香港系、日系、ルーマニア系、ロシア系、ウクライナ系、韓国系など、さまざまな文化を持った子供たちが一緒に学びます。大抵の生徒には家には別の言葉と文化があり、学校にきて、英語を話し、わたしとは日本語を学び、柔軟な生徒たちです。

学校が小さいので給食はなく、お弁当は各自もってきますが、毎日が多国籍ランチのようです。インドパンを食べる子供のよこには、焼き飯を食べるこどもがいて、最初は自分の文化圏とちがった食べ物を持ってくる子供をみて、驚いた様子もありますが、すぐにそれはその人の家の文化だと受け入れて、それを特別視することもありません。他の子供が食べているおやつが美味しそうであれば、食べさせてもらって、好きであれば、それを今度は自分が持って来たりもします。互いを受け入れることを小さい時期に学ぶことができる環境は素晴らしいと思います。人はそれぞれちがった賜物をもって生まれます。みな違うことは当たり前のことです。

わたしがいつも子供たちに教えることですが、考え方が違うからといって、その人の人間性を否定してはいけないと。

これは日本の小学生の国語の教科書に書かれていることでもあります。

昨今、ニュースで話題になっている岩手県のやはば市の中学生の男の子の話を聞いて、本当につらく思います。アメリカは利己主義的な国、合理的な国というのが世界の見解だと思います。しかし、例えば、わたしの勤務している学校でいえば、生徒の日常にいつも先生がかかわっており、なにか変ったことがあると、教師同士の横のつながりで明らかにしなければいけないことを話合い、それでも納得がいかないことがあれば上司に話すといった環境があります。先進国アメリカですから、父兄や先生同士のやりとりは電子メールが主流です。必要だと感じることがあれば電話連絡もします。

学校には24時間ルールというものがあり、もし父兄からメールが来ることがあれば、すべての学校関係者は24時間以内に対処すべきというものです。教師という立場上、それぞれの生徒の長所がいかされて育っていってほしいという気持ちを基に、たとえその子供に非があったとしても、まず、その生徒のすばらしい部分をほめてから、本題に入るように指導されています。

父兄に安心感を持ってもらえなかったら学校の立場はどうなるでしょうか。

教師ですから、子育てに対する父兄との立場は全く違います。ですが、そのお子さんの命を預かって、成長を見守っているのですから、少しでも問題があるようであれば、それはすぐに明らかにするべきであるという認識がどの教師にもあります。日本で時にして、起こるこういう話は悲しくてしかたありません。テレビで釈明をしている方たちは一体何を考えていたのでしょうか。

今後に向けて

立場が主婦・学校の一父兄というところから、先生というものになり、自分の言動により注意を払い、日本人の小さな代表であることもいつも忘れず生活する日々が続きます。

時代は少し逆戻りしますが、シアトルには明治の中ごろから日本の商船が入港していました。明治の終わりごろにはふたつの船が日本アメリカ間を往復していました。日本郵船のシアトル行と、大阪商船のタコマ行です。

シアトルータコマ空港というのがいまの空路の玄関ですが、シアトルもタコマも20分の距離です。その時代先人たちはどういった生活をしていたのでしょうか。

シアトル全域から晴れた日には見えるレーニア山が富士山の姿ににているというので、みな「タコマ富士」と呼んで故郷をなつかしんだそうです。

また和歌山との関わりは深く、この春、シアトルにある紀州クラブが110周年を迎えました。県知事も式典に来られたと聞いております。戦争中には本当にいろいろな事があったようですが、今も古人の心意気はわたしたちに引き継がれています。

先日、友人を介してあるおばあちゃまと話す機会がありました。

そのおばあちゃまが子供の頃、ちかくの「よしこ」ちゃんがいつも面倒をみてくれたそうです。よしこちゃんの家族はとても礼儀正しく、やさしく、よしこちゃんには日本語を教えてくれる大事なお友達だったそうです。ある日、強制的によしこちゃんの家族が収容所に送られることになり、どうしてこんなやさしい人たちがひどい目に会うのかわからないと、この方は子供ながらに悲しんだそうです。終戦になるまでこの家族の荷物を預かってくれていたそうです。子供たちが学校で歴史の勉強をするにつけ、パールハーバーの話がでます。つらいものです。ただ、一般の人たちがそう思ってくれていたことに接して、ああ、日本人はどこにあっても誇りを忘れず、気品のある民族であることをうれしくおもいます。

毎回新な土地に住むときに心掛けることです。それが日本であるならば、自分が和歌山出身であることを誇りに思い、いつもまわりの人には親切にすること。それが日本でないのであれば、他の国に住んでいるのではなく、常に住ませていただいているということを忘れず、感謝すること。また自分は小さいながらも日本の代表であることを忘れず、祖国に恥ずかしくないようにいつも誇りを持って生きること。アメリカはその自由さゆえ沢山の問題も抱えているように思えますが、正規に入国してくる外国人には寛大な国だと思います。その国で生まれた子供にはたいてい国籍を与え、親といっしょに育ててくれます。感謝を忘れてはならないと肝に銘じています。

シアトルの話

シアトルというと、シアトルマリナーズにいらっしゃったイチロー選手が有名ですが、いまも岩隈というすばらしい投手はいます。ただ、イチローがいた時期には関空からの直行便が飛んでいたのに、最近ではシアトルから東京直行も難しくなっています。

シアトルは、またアメリカ人が引越していきたい場所の一位であります。年間の降水確率は200日近いのですが、夏の165日は晴天ですばらしく、湿気も低く、過ごしやすい気候です。緯度的には、カムチャッカ半島の真ん中あたりで、本来は劇冬のはずが、オリンピア半島のおかげで温暖な気候が一年間つづきます。最近の異常気象でアメリカのほぼ全土で災害が起こりますが、いまだシアトル近郊はそういった被害もあまりありません。

シアトルといいますと、たくさんの有名企業が本社を構えています。